

# AquesTalk プログラミングガイド

2006/10/06 アクエスト

## 1. 概要

本文書は、規則音声合成ライブラリ AquesTalk をアプリケーションに組み込んで使用するためのプログラミングに関して、方法および注意点を示したものです。

AquesTalk には 2 種類のライブラリがあります。音声データをメモリ上に生成するものと、サウンドデバイスに出力する 2 種類があります。使用するアプリケーションに応じて選択してください。

最も簡単な使用法は、次の 1 行のコードで実現できます (VC++)。

1. 音声を生成して、サウンドデバイスに出力します

```
AquesTalkDa_PlaySync ("こんにちわ。"); //< 引数に音声記号列の文字列を指定
```

なお、本ライブラリをアプリケーションに組み込んで使用する際には、事前に同梱の「プログラム使用許諾契約書」(AqLicense.txt)をご確認ください。

## 2. ライブラリ構成

AquesTalk には、次の 2 種類のライブラリがあります。

### 1. AquesTalk.dll

音声記号列から音声データ(WAV フォーマット)を生成します。  
音声データをメモリ上に生成します。  
生成した音声データになんらかの処理を施す場合には、こちらを用います。

### 2. AquesTalkDa.dll

AquesTalk.dll に、DA(サウンド出力機能)を含んだもので、音声記号列から音声を生成し、サウンドデバイスに出力します。  
AquesTalkDa.dll の実行に際し AquesTalk.dll は不要です。  
同期と非同期の 2 種類があります。同期タイプは発声を終了するまで関数から戻らないもので、非同期タイプは、発声の終了を待たずに関数から戻るもので、発声の終了はメッセージで通知することが可能です。

AquesTalkDa.dll

AquesTalk.dll

DA

また、dll,lib それぞれに、リリース版と、デバッグ版を用意しています。AquesTalkD.dll のように、ファイル名の後ろに'D'がついているものがデバッグ版です。デバッグ版は、エラー時に、デバッグウィンドウに詳細な情報を示します。

## 3. コンパイル・リンク

### 3.1. ヘッダ、ライブラリ

DLL を使用するには 対応するヘッダファイル(.h)をインクルードし、リンク時に 対応する lib ファイルをリンクするか、LoadLibrary()などで実行時に動的にリンクすることが必要です。

各 DLL に対応するヘッダ等は下表を参照してください

DLL	ヘッダ	lib
AquesTalk(D).dll	AquesTalk.h	AquesTalk(D).lib
AquesTalkDa(D).dll	AquesTalkDa.h	AquesTalk(D).lib

## 3.2. 標準ライブラリ

本ライブラリは、実行時に標準ライブラリを別途必要とします (AquesTalk.dll は、MSVCRT, KERNEL32, AquesTalkDa は MSVCRT, KERNEL32, WINMM, USER32)。これらは通常 Windows のシステムディレクトリに含まれていますので、通常、実行時に用意する必要はありません。

ヒープメモリ処理のライブラリの関係上、AquesTalk\_Synthe()関数で返された音声データは、free()で解放せずに、AquesTalk\_FreeWav()を呼び出して解放してください。

ちなみに本ライブラリは、標準ライブラリを以下のように指定して VC++6.0 でビルドしています。

リリース版	マルチスレッド(DLL)
デバッグ版	マルチスレッド(DLL、デバッグ)

## 4. 関数 API

### 4.1. AquesTalk.dll

#### AquesTalk\_Synthe

AquesTalk.h

---

<b>説明</b>	音声記号列から音声波形を生成します 生成した音声データは、使用后、呼び出し側で free()してください。
<b>構文</b>	unsigned char * <b>AquesTalk_Synthe</b> (const char *koe, int iSpeed, int *size)
<b>引数</b>	
koe	音声記号列
iSpeed	発話速度[%] 50-300 の間で指定 デフォルト:100 値を大きく設定するほど、速くなる
size	生成した音声データのサイズが返る[byte](エラーの場合はエラーコードが返る)
<b>戻り値</b>	WAV フォーマットのデータ(内部で領域確保、解放は呼び出し側で AquesTalk_FreeWave()で行う)の先頭アドレスを返す。エラー時は、NULL を返す。このとき size にエラーコードが設定される。

#### SetSpeed AquesTalk\_FreeWave

AquesTalk.h

---

<b>説明</b>	音声データの領域を開放
<b>構文</b>	void <b>AquesTalk_FreeWave</b> (unsigned char *wav)
<b>引数</b>	なし
wav	WAV フォーマットのデータ(AquesTalk_Synthe()で生成した音声データ)
<b>戻り値</b>	なし

## 4.2. AquesTalkDa.dll

### AquesTalkDa\_PlaySync

AquesTalkDa.h

---

説明	同期タイプの音声合成。発声が終了するまで戻らない。
構文	int <b>AquesTalkDa_PlaySync</b> (const char *koe, int iSpeed=100)
引数	
koe	音声記号列
iSpeed	発話速度[%] 50-300 の間で指定 デフォルト:100 値を大きく設定するほど、速くなる
戻り値	0:正常終了 それ以外:エラー

### AquesTalkDa\_Create

AquesTalkDa.h

---

説明	音声合成エンジンのインスタンスを生成(非同期タイプ)
構文	H_AQTKDA <b>AquesTalkDa_Create</b> ()
引数	
戻り値	音声合成エンジンのハンドル

### AquesTalkDa\_Release

AquesTalkDa.h

---

説明	音声合成エンジンのインスタンスを解放(非同期タイプ) 発声終了前にこの関数でインスタンス解放すると、その時点で発声が終了してしまうので注意
構文	void <b>AquesTalkDa_Release</b> (H_AQTKDA hMe)
引数	
hMe	音声合成エンジンのハンドル
戻り値	なし

### AquesTalkDa\_Play

AquesTalkDa.h

---

説明	非同期タイプの音声合成。発声終了を待たずに戻る。 発声終了時に hWnd に指定したウィンドウにメッセージが送出(post)される。 再生終了前に <b>AquesTalkDa_Play</b> ()を再度呼び出すことで、連続再生可能。また、このとき、hWnd 等を変更して異なるメッセージを設定することも可能
構文	int <b>AquesTalkDa_Play</b> (H_AQTKDA hMe, const char *koe, int iSpeed=100, HWND hWnd=0, unsigned long msg=0, unsigned long dwUser=0)
引数	
hMe	音声合成エンジンのハンドル
koe	音声記号列
iSpeed	発話速度[%] 50-300 の間で指定 デフォルト:100 値を大きく設定するほど、速くなる
hWnd	発声終了時のメッセージの送り先 Window ハンドル(NULL を指定すると終了メッセージは送られない)
msg	発声終了時のメッセージ ID を指定する。hWnd=NULL の時は無効
dwUser	任意。発生終了時のメッセージの lParam(第 2 引数)に渡される
戻り値	0:正常終了 それ以外:エラー

## AquesTalkDa\_Stop

AquesTalkDa.h

説明	発声の停止。Play()で発声中に使用する。 Stop()によって発声が終了した場合も、Play()で hWnd が指定されていたならメッセージが送出される。
構文	void AquesTalkDa_Stop(H_AQTKDA hMe)
引数	
hMe	音声合成エンジンのハンドル
戻り値	なし

## AquesTalkDa\_IsPlay

AquesTalkDa.h

説明	再生中か否か
構文	int AquesTalkDa_IsPlay(H_AQTKDA hMe)
引数	
hMe	音声合成エンジンのハンドル
戻り値	1:再生中 0:再生中でない

## 5. 音声データ形式

本ライブラリで生成する音声データは、次の形式となります。

AquesTalk\_Synthe()で生成する音声データには、先頭部に WAV ヘッダが付与されています。

ストレート PCM データが必要な場合は、別途ヘッダを除いて使用してください。

また、AquesTalkDa.dll では、サウンドドライバが以下の形式の音声を再生できる必要があります(基本的な形式ですので、ほとんどのパソコンで問題なく再生できると思います)

サンプリング周波数	8 KHz
量子化 bit 数	16 bit
チャンネル数	モノラル
エンコード	リニア PCM
フォーマット	WAV 形式

## 6. サンプルコード

次に示すコードは、音声記号列から音声データを生成し、WAV ファイルとして出力する最も単純なプログラムです (HelloTalk.cpp)。

12行目の"こんにちわ。" の部分を、任意の音声記号列に変更することで、異なるメッセージを生成可能です。

なお、このプログラムで出力した WAV ファイルは、メディアプレイヤーなどで再生することができます。

非同期に音声出力を行う、再生を停止する、発声速度を変更するなどのより高度なプログラミング方法は、付属の MFC アプリ AqTkApp のソースコードを参考にしてください。

VC++以外の環境、C#,VB,PHP などでの使用方法は、今後、下記で紹介していく予定です。

AquesTalk <http://www.a-quest.com/aquestalk/>

```
#include <stdio.h>
#include <AquesTalk.h> // AquestTalk クラスのヘッダ

main(int ac, char **av)
{
    int size;
```

```

// メモリ上に音声データを生成
unsigned char *wav = AquesTalk_Synthe("こんにちわ。", 100, &size);
if(wav==0) {
    fprintf(stderr, "ERR %d", size); // エラー時は size にエラーコードが返る
    return -1;
}

// ルートディレクトリに生成した音声データを保存
FILE *fp = fopen("¥¥ZZZ.wav", "wb");
fwrite(wav, 1, size, fp);
fclose(fp);

// Synthe()で生成した音声データは、使用後に呼び出し側で解放する
AquesTalk_FreeWave (wav);

return 0;
}

```

## 7. エラーコード表

関数が返すエラーコードの内容は、次の通りです。

値	内容
100	その他のエラー
101	メモリ不足
102	音声記号列に未定義の読み記号が指定された
103	韻律データの時間長がマイナスになっている
104	内部エラー(未定義の区切りコード検出)
105	音声記号列に未定義の読み記号が指定された
106	音声記号列のタグの指定が正しくない
107	タグの長さが制限を越えている(または[>]が見つからない)
108	タグ内の値の指定が正しくない
109	WAVE 再生ができない(サウンドドライバ関連の問題)
110	WAVE 再生ができない(サウンドドライバ関連の問題 非同期再生)
111	発声すべきデータがない
200	音声記号列が長すぎる
201	1つのフレーズ中の読み記号が多すぎる
202	音声記号列が長い(内部バッファオーバー)
203	ヒープメモリ不足
204	音声記号列が長い(内部バッファオーバー)

## 8. 履歴

日付	版	変更箇所	更新内容	更新者
2006/05/17	1.0	新規作成		N.Y
2006/10/06	2.0	I/F 改訂	C++のクラスからCの関数に変更	N.Y